



平成 21 年 12 月 25 日

各 位

(財) 日本モーターサイクルスポーツ協会
ロードレース委員会
技術委員会

全日本ロードレース選手権 新規カテゴリー「J-GP2 クラス」の設立について

2010 年より全日本ロードレース選手権に新カテゴリー「J-GP2 クラス」を設けることになりました。このクラスは、ST600 の参加が増加し、内容もレベルアップするにつれ、上位者の固定化し、新規参加が困難となっている状況を緩和する目的に上位者のステップアップクラスの位置づけとして、また、将来的に世界選手権 Moto2 クラスへ通じ、世界との連携および若手選手のステップアップの道筋を確立することを目的とするとともに、コンストラクターのビジネス機会創出とすべく ST600 からの改造車両もデチューン版 Moto2 マシンも参戦できるクラスとなります。

< 参加車両 >

4 ストローク 600 cc エンジンを搭載し、外装およびフレーム関連は、GP フォーミュラの技術仕様をベースに ST600 フレーム改造車両と新作フレームに 600cc エンジン搭載車両が参加するクラス構成となります。詳しくは、2010 国内競技規則書（12 月 25 日発行）をご確認ください。

1	ST600 のフレームをベースに改造	最低車両重量 148kg
2	新作フレーム車両	最低車両重量 153kg

< 参加資格と参加制限 >

ロードレース国際ライセンス所持者のフリーエントリー

< タイトルと大会会場 >

全日本選手権のシリーズタイトルを賭け、全 6 戦にて開催する。

開催会場 R1 筑波、R2 鈴鹿、R3 オートポリス、R4 SUGO、R6 もてぎ、R7 MFJGP 鈴鹿※

※ 最終戦は、第 6 戦までのポイント取得者

< 競技の運営方法 >

主催者が単独開催または、JSB1000 クラスとの混走を決定し、その予選、決勝の運用方法は、公式通知にて公示される。

単独開催にて予選が行われる場合は、予選回数 1 回、最低時間 20 分以上とする。

<賞典とシリーズポイント>

J-GP2 クラスは、決勝レースの形態（単独・混走）にかかわらず、J-GP2 の決勝結果に基づいてポイントが付与される。ただし、予選出走台数が1台の場合は、シリーズポイントは付与されない。

<J-GP2 車両規則 抜粋版 >

以下の抜粋版規則は、2010 国内競技規則書と表記等が異なる場合もございます。ご了承ください。

・ 全日本選手権 J-GP2 クラスに参加する4ストローク車両技術仕様

本規則は全日本選手権 J-GP2 クラスに参加する4ストローク車両の仕様を定めるため制定する。
参加車両は、(以下 J-GP2 と呼ぶ) 下記の技術仕様に適合すること。

11-1 J-GP2 車両の技術仕様

11-1-1 J-GP2 車両は、MFJ 国内競技規則書 付則7 GP フォーミュラ技術仕様第1項から7項の基本仕様に適合してなければならない。ただし、GP フォーミュラ技術仕様第1項から7項と相反する項目は、この規則項目が優先される。
エンジン容積に基づいて下記のクラスに分類される。

クラス	エンジン排気量	最大気筒	エンジン形式
J-GP2	401 cc を超え 600 cc まで	4 気筒	4 ストローク

11-2 エンジン

11-2-1 一般生産型モーターサイクルで、MFJ が公認した ST600 車両のエンジンでなければならない。

11-2-2 エンジンとは、スロットルボディを含むエンジン本体をいい、エンジンの変更、改造は下記以外禁止とする。

11-2-3 シリンダーヘッド

シリンダーヘッドは、公認車両の状態に対して燃焼室の研磨およびポーティングのみ認められる。ベース面の研磨による圧縮比の変更は認められない。

11-2-4 カムプロケット

公認車両時の状態からカムプロケットの取り付け穴の変更は認められる。

11-2-5 エンジン内部以外の排気ガス対策装置の取り外し（エンジン外部に装備されたパイプ・チューブ類を取り外し、回路を閉塞すること）は認められる。

11-2-6 クラッチスプリングの変更は認められる。

11-2-7 2次カバーの規則 — 省略 —

11-2-8 エンジンレブリミッター/スピードリミッター（イグナイター含む）は変更してもよい。

11-2-9 点火時期/スパークプラグ/プラグキャップ/ハイテンションコードは変更しても良い。

11-2-10 ボルト・ナット類は変更しても良い。

- 11-2-11 キャブレター/フューエルインジェクション
- 11-2-11-1 キャブレター/スロットルボディーは、MFJ が公認した ST600 車両の状態を維持しなければならない。
- 11-2-11-2 フューエルインジェクション・マネージメント・コンピューターアッセンブリー
およびフラッシュ RAM は変更してもよい。
- 11-2-11-3 インジェクターは公認されたモーターサイクルに装備されているのと同じものでなくてはならない。
- 11-2-11-4 エレクトリック、またはメカニカル・エンリッチング（濃くする）・デバイスは、作動しないようにすることができる。また、そのためにデバイス本体を取り外すこと、およびそのための変更は許可される。
- 11-2-11-5 メカニカル・エンリッチ・デバイスの温水配管の取り外しも認められる。
- 11-2-11-6 キャブレターのジェット類、およびニードル類のみ変更が認められる。

- 11-3 フレーム
- 11-3-1 フレームは、MFJ が公認した ST600 車両のフレームまたは新作のフレームを使用することができる。フレームによって車両の最低重量が異なる。
最低重量は付則 7 GP-フォーミュラ技術仕様 7-18 項に定められる
- 11-3-2 MFJ で公認した ST600 車両のフレームの改造は許可される。

- 11-4 フロントフォーク
- 11-4-1 フロントフォークのアウトチューブ・インナーチューブは MFJ が公認した ST600 車両のものを使用しなければならない。
- 11-4-2 フロントフォークの内部パーツは改造または変更することができる。
- 11-4-3 フォーク・キャップは、外部から調節できるように改造、または交換することができる。
- 11-4-4 車両公認時のフォークチューブ（フォークパイプ）の表面仕上げは変更しても良い。追加の表面処理が認められる。

- 11-5 リヤフォーク（スイングアーム）
- 11-5-1 リヤフォークは ST600 車両公認時のものから変更または交換することができる。

- 11-6 ボディーワーク（フェアリング・ウインドスクリーン・フェンダー） ー省略ー
- 11-7 ナンバープレート ー省略ー

- 7-12 ホイール、リム、およびタイヤ
- 7-12-1 ホイール
J-GP2 クラスのホイールの材質はアルミニウムに限定される。

- 7-12-2 リム
- 7-12-3 最大幅は以下のとおりとする。

クラス	フロント	リヤ
J-GP2	3.75 インチ	6.00 インチ

J-GP2 は、直径 17 インチのホイールリムに限定される。

7-12-4 タイヤ

7-12-4-1 レーシング・タイヤが使用されなくてはならない。

J-GP2 クラスは、ST600 公認タイヤの使用も認められる。

7-16-8 GP フォーミュラ

音量測定は、下記固定回転数方式が適用される。

	4 気筒
J-GP2 (4 ストローク)	7,000rpm

7-18 最低重量

7-18-1 下記が許可される最低車重である：

クラス	車両	最低重量
J-GP2	ST600 のフレームを使用の場合	148kg
	新作フレーム使用の場合	153kg